



国立水俣病総合研究センター（国水研）広報誌

とんとん峠

29号

(2011.03)

本号の特集では国水研の国際的な水銀研究振興への取り組みとして1月に開催した「※NIMDフォーラム2011-1」の様子を紹介します。とんとん峠を御覧になって頂き、少しでも国水研の活動を知って頂けたら幸いです。

今回のNIMDフォーラムのテーマは、「メチル水銀毒性のメカニズム」についてです。「メチル水銀毒性のメカニズム」については、水俣病が発見された一九五〇年代から現在にいたるまで様々な研究が行われてきましたが、完全には解明されていません。私たちは、「メチル水銀毒性のメカニズム」を解明することによって、メチル水銀中毒の診断、予防および治療において有益な情報を得ることを目指しています。



目次

● 特集

『NIMDフォーラム

2011』

● 国水研の動き（十二月～二月）

● 国水研からのお知らせ

● 健康メモ

● 編集後記

● アクセスマップ

〔※ NIMD（国立水俣病総合研究センターの英文名である National Institute for Minamata Disease の略）〕

●特集

『NIMDフォーラム
2011』

基礎研究部 藤村 成剛

国水研は、一九九七年以降、国内外の専門家を招へいし、最新の研究発表と意見交換を行う国際フォーラムである「NIMDフォーラム」を開催しています。今年度のテーマは「メチル水銀毒性のメカニズムについて」で、六つのセッションに分かれて国内八名、アメリカ三名、フランス二名、スウェーデン二名の研究者が研究発表を行いました。また、海外の研究者に水俣病を始めとする水俣の歴史・文化を学んでもらうために、NIMDフォーラムの前に「スタディー・ビジット」を企画開催しました。

フォーラムは一月二七日（午前、午後）、二八日（午前）に開催され、

延べ約一〇〇名が参加しました。各研究者が三五分の持ち時間でメチル水銀毒性に関係する研究成果を発表しました。発表後には質問タイムが設けられ、所内外の研究者から質問が飛び交って、活発なフォーラムとなりました。また、二八日の熊本日日新聞、西日本新聞、毎日新聞朝刊に、本フォーラムに関する記事が掲載され、フォーラムに対する注目度の高さが窺えました。



フォーラム会場



集合写真

スタディー・ビジットには、七名の海外研究者及び二名の国内研究者が参加しました。チッソ水俣工場、村丸ごと生活博物館（頭石地区）、水俣病資料館、水俣病情報センター、親水護岸、百間排水口の順で見学を行いました。普段、水俣病の原因となったメチル水銀毒性のメカニズムを研究している研究者であっても、水俣を訪れることは初めてという方がほとんどで、大変喜んでおられました。実際の見学では、どの研究者も集中して話を聞かれ、意欲的

に質問をされて、有意義なスタディー・ビジットとなりました。NIMDフォーラム2011の詳細は[こちら](#)をご覧ください。



水俣病情報センターの見学



チッソ水俣工場の見学

国内外から参加された研究者の感想を
記載します。

I had a wonderful time in Minamata. I have always wanted to visit having seen pictures and followed the literature on the patients. But of course, reading about it and being in this place where the first major MeHg poisoning was first recognized is very different. I have learned a lot from the meeting and am delighted to have had a chance to talk about our research and hear about the research by others.

(水俣で素晴らしい時間を過ごすことができました。患者さんのことを写真で見 て、さらに文献を読むことで、ずっと水俣を訪問したいと思っていました。水俣病について資料を読むことと、メチル水銀による中毒が最初に起こった現地を訪問することは、勿論違っていました。この集会に参加して多くのことを学び、相互に研究発表を行う機会が得られたことをうれしく思います。)

I left Minamata recognizing that a place that was associated with a tragedy is now a beacon of hope and an example to other communities in Japan and Globally. The noble people of Minamata have proven how one can learn from a disaster and assure that it never happens again.

(悲劇の場所であった水俣が、現在、日本の他の地域や世界の希望の光であり模範であることを理解して水俣を後にしました。また、水俣のすばらしい住民が、悲劇から人はどのように学ぶべきかを明らかにしたことと、悲劇は二度と繰り返しては いけないことを再認識しました。)

It was a very interesting meeting and the visit gave us the opportunity to learn more about Minamata and the ongoing research in your institute.

(とても興味深い集会でした。また、水俣と国水研の研究を学ぶことができました。)

研究だけでなく、チッソ水俣工場の見学や外国人研究者との交流も刺激的で楽しめました。

国水研の動き

(平成二十二年十二月～平成二十三年二月)

十二月二日

筑波大学一行来所

十二月十日

KITA 研修(タイ・ベトナム)

十二月十六日

国水研セミナー

十二月二十四日

北九州市立大学一行来所

一月六日～七日

第九回横浜微量成分ワークシヨップ

(化学工学会エネルギー部会微量成分分
科会主催)

一月二十六日

スロベニア国イドリア市長 BOJAN

SEVER 氏、シヨセフステファン研究所

Milena Horvat 氏他来所

一月二十七日～二十八日

NIMDフォーラム(情報センター)

二月二日

JICA研修(中国・ベリーズ・チリ他)

二月十六日

KITA 研修(インドネシア・シリア他)

二月十八日

都留文科大学一行来所

二月二十一日

国水研研究評価委員会

お知らせ

◎第二十二回健康セミナーを開催します！

日時

三月二十六日(土)

十四時三十分～十六時

場所

水俣病情報センター講堂

(水俣市明神町五五一〇)

テーマ

「メンタルヘルスケア ～心身共に健康に老いるために～」 『ストレスを知って生き方上手になるうー!』

講師

島村 佳子先生(熊本産業保健推進センター相談員)

参加料 無料(申込不要)

※当日会場では毛髪水銀値の無料測定も行います。津奈木、袋方面に送迎バスを運行予定です。

お問い合わせ 国立水俣病総合研究センター水俣病情報センター

TEL 09-2400

当日の詳細については、[「こちら」](http://www.nimnd.go.jp)をご覧ください。みなさまのご来場お待ちしております。

健康メモ

現代社会においてストレスという言葉はよく聞きますね。ストレスをためていると「心の病気」になってしまうことがあります。ストレスが原因の症状には疲れやすい・だるい・めまい・立ちくらみ・頭痛・肩こり・動悸・息切れ・冷え・のぼせ・胃痛・目の疲れ・食欲不振などがあります。これらの症状が慢性的に続く人はストレスが原因である病気の可能性がります。体の活動を支配している自律神経には活動の交感神経と休息の副交感神経があり、これらの神経のバランスよく営まれていれば正常ですが、ストレスによってこのリズムが乱れると、自立神経失調症と呼ばれる不快な症状がでてきます。ストレスは胃腸や循環器の病気の原因にもなります。工作上、大なり小なり、ストレスを受けることは避けられません。適度のストレスは良い刺激になりますが、度を越えると大きな病気になるおそれもあり

ます。特に最近ではIT化などで職場環境が変わることにより、心に不安を抱える人が増えています。このようなストレスをためないためにストレス解消法を熟知しておく必要があります。仕事や家事の合間、疲れたときにやってみてください。簡単に実行できるリラククス法を紹介します。

- ①癒しとリラククス(ボサノバのような音楽を聴く・星を眺める・香をたく・絵本を読むなど)
- ②運動とリラククス(深呼吸・散歩・ストレッチ・大きな声で話すなど)
- ③生活とリラククス(歯みがき・梅茶を飲む・笑うなど)。

(www.stress-labo.com 4615用)
ストレス解消で最も効果があるのが運動です。運動を効果的に行うことでリフレッシュしましょう！
(臨床部 村尾光治)

編集後記 本日のとんとん峠

本年度の「とんとん峠」の発行は最後となりました。今回の特集は『NIMDフォーラム2011』でした。国内外の研究者にNIMDフォーラムにおける研究発表を打診したところ、皆さん快く引き受けて下さいました。このことは、公書の原点である水俣を一度は訪問したいという水銀研究者の思いがうかがえました。来年も「とんとん峠」の発行を続けていきます。これからも世界各国との研究協力を通して、情報発信をしていきますのでよろしくお願い致します。(M・F)

Eメール mail@nimnd.go.jp

アクセスマップ

